

北海之光

4月号 北海道教区報

わたしがここにおります
 わたしを遣わしてください
 イザヤ書6章8節

発行所 北海の光社
 001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12
 日本聖公会北海道教区事務所
 電話 011-717-8181
 F A X 011-736-8377
 E-mail:hikari@nssk-hokkaido.jp
 http://www.nssk-hokkaido.jp
 発行人 植松 誠

血まみれの復活

旭川聖マルコ教会牧師
 稚内聖公会・深川聖三一教会・留萌キリスト教会管理牧師
 司祭ミカエル 広谷和文

ある年の復活節、ヨハネによる福音書二〇章二七節の言葉が不思議な響きをもって迫ってきたことがあります。それは「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、わたしのわき腹に入れない」というトマスに語りかけるイエスの言葉です。そこから「復活のイエスは、十字架にかけられたままのイエスである」というメッセージが新鮮な驚きと共に聞こえてきたのです。

イースター前夜までの赤の祭色が、イースターの朝、白に変わります。そこに私たちは、悲惨な十字架から栄光の復活へという変化を感じ取ります。

ところが、私はトマスに語

られたイエスの言葉を耳にして、復活のイエスの手には釘の穴がそのまま残っており、脇には槍で刺し貫かれた深い傷口が開いていたのだと言う事実にはっとしました。それはおそらく今も血が流れ続けている傷口だったのではないのでしょうか。イエスの復活とは、栄光の身体に変えられた復活ではなく、血まみれのイエスの、傷だらけのイエスの復活であったのです。これまで私たちは、このことに気付かずイースターを祝ってきたのではないのでしょうか。

「十字架と復活」と言う時、この「と」という接続詞が、対比、並列、あるいは十字架から復活へ、という一つの流れとして捉えられていたように思われてなりません。しか

しこの「十字架と復活」の「と」という接続詞は、むしろ「即」と受け止めるべきではないかと思えます。すなわち「十字架と復活」とは、「十字架即復活」「復活即十字架」なのです。それを一連の流れとしてではなく、一つの出来事として受け止める時、復活は、観念ではなく、生身の私たちにあって、切実な意味を持つてくるのではないのでしょうか。復活のイエスの身体は、全ての血がふき取られ、傷が覆われ、清められた神々しい身体ではなく、傷も血も汚れもそのままの、十字架につけられたままの身体であったのです。

人間の歴史は傷だらけの歴史であり、血にまみれた歩みでした。今も私たちは現代特有の血なまぐさい、絶望的な現実の中を生きています。復活のイエスの中に栄光しか見ることがないならば、そのイエスは私たちの苦悩に満ちた現実と触れ合うことがない

と言わざるをえません。ところが、復活のイエスが血だらけのイエスであるからこそ、その姿の中に、私たちはこの時代が負っている全ての傷、非業の死を遂げた人々の無念さ、愛する者を失った人々の悲しみを見ることが出来るのです。放射能汚染にさらされている生命の悲痛な叫びを聞くことが出来るのです。そして、私たちはそこに自分自身のどうしようもない傷と悲しみを見るのです。しかしその傷と悲しみを見つめながらも、復活と十字架が一つの出来事として体験される時、私たちはその傷にもかかわらず、むしろその傷ゆえにこそ復活の命に与ることが出来るのではないのでしょうか。この血まみれのイエス、傷だらけのイエスと共に歩む時、「あなたに」と言われた彼の言葉が私たちに包んでくれるのではないのでしょうか。



福音と私(二一五)



—心の窓をひらいて—

—今、なぜ、私はキリスト者として生きるのか—

札幌聖ミカエル教会信徒

ルシア 山崎 恒子



【好きな聖句】

「風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くかを知らない。霊から生まれた者も皆そのとおりでである。」

(ヨハネによる福音書二章八節)

私が聖ミカエル教会に通うようになって、本当に長い年月が経っていることを改めて思い起こしています。以前、ある司祭から「長い信仰生活をただ漫然と送っているのはよくない」と言われ、その時は全く人ごとだと思っていました。まさに自分が該当する年数になっていることに驚いています。

私はまだ乳幼児の頃に亡く

台まで競争して泳いだ思い出があります。その後、日曜学校も二年間お手伝いしました。聖話もおぼつかない学生の私でしたが、周りの方々に教えられ見守られながら、過ごすことができました。当時

は毎週、聖歌を歌いながら子どもたちを家の近くまで送っていました。そして学校卒業後、聖ミカエル幼稚園に就職しミカエル在籍となりました。その頃は若い信者さんがたくさんいて青年会活動があり共に聖歌を歌い、他教会との交流会や雪まつりに雪像を作ったこともありました。今も顔を合わすと懐かしい仲間たちです。一方、幼稚園では歴代の数名の園長先生、チャプレンの先生、そして教職員の先生方との出会いがあり、教えられ育てられ、また「あなたの若い日にあなたの造り主を覚えよ」コレヘトの言葉二二・一(口語訳)を心に、共にキリスト教保育を目指し働きました。幼児期のこの時に神さまを知り、聖書に触れることは本当

にとっても大きなものであり、大切なことであると思うと同時に「幼稚園の子どもたち、そして日曜学校の子どもさん、教会のおじさん、おばさんはいつも皆さんのことをお祈りしていますよ」ということを知っていてほしい思いでいます。

担任をしていた頃はまだまだ若く未熟に違いなかった私にも信頼と感謝を持って見守ってくださった父母の皆さんにこちらも本当に感謝でした。「お世話になっていきます」という言葉に支えられ、子どもたちと過ごすことが幸せでした。その後は自分の子育て、病気等で何度か途切れはしましたが、三〇年近い年数を聖ミカエル幼稚園で過ごしました。特に管理職は楽しいことばかりではなく、難しいことに直面することも多々ありましたが、神様のお導きと皆さんのお祈りのうちに何とか続けられたのでは…と今も思い起こし感謝です。長く勤めている中で何十人もの先生方と家族といえるよりもっとも

と長い時間を職場で共に過ごす、という濃いつながりをしました。教会に導くことはなかなか難しい課題であり、心残りとなりました。そんな中でも、幼稚園に子どもを通わせていたお母さんたちが数人が聖ミカエル教会で洗礼を受け、今や教会に欠かせない重要な信者になっていくことは、本当に大きな喜びです。

「仕事をリタイアしたらミカエルの仲間に入れてもらおうかな」と言っている夫や洗礼だけになってしまっている子どもや、近頃見つけたエンディングノートに「お葬式はキリスト教で」と書いてあった高齢の母も導くことができたら…と祈っているところ。す。いつのまにか私自身も高齢者の仲間入りとなり、理想としては、教会の片隅でただ静かに祈るおばあさんになることなのですが。

聖霊はどんな場所にもそして私のうえにもいつも風のようには働き続けていることを信じていこうと思います。

なってしまう父方の祖父母や叔母たちは日本キリスト教会の信者でした。父たち下の兄弟も日曜学校に通ってはいなかったものの洗礼は受けずまいに。それでも子どもの私たちが姉妹が教会に行くことは普通に受け止めていたようで、皆近所の教会の日曜学校に通いました。その後、姉が聖公会信者になったこともあり、私も高校生になってからは札幌キリスト教会へ。そして数年後、洗礼堅信を受けました。渡辺政直主教さまの最初の挨拶。手だったように記憶しています。

高校生の時は夏の有珠キャンプに出かけ、今はもう退職された司祭さんたちがまだまだお若い時で、海の飛び込み

常置委員会報告

第五回三月一三日

《協議事項》

- 一、決算承認の件
財政部より提出された二〇一七年度教区会計決算書を精査し承認した。
- 二、人事異動に関する件

主教より提案の諮問に同意した。

- 三、教区礼拝説教者の件
沖繩教区上原榮正主教をお招きする事を承認した。
- 四、教区礼拝に関する件
教区礼拝に関して必要事項を協議した。
- 五、学法評議員推薦の件

三名の評議員を推薦した。六、三浦千晴聖職候補生志願者の聖公会神学院入学礼拝に関する件

- 神学院理事長として植松主教、出身教会牧師として大町信也司祭の出席を確認した。
- 七、稚内聖公会、厚岸聖オーガスチン教会の件



主教室より

今年も聖木曜日、司祭按手式の際の誓約更新の礼拝が主教座聖堂で行われました。北海道教区は広く、遠方からの聖職はなかなか集まらないのですが、それでも、一三名の司祭たちが式服を着けて祭壇前に並びました。私はこの礼拝をとっても大切に思っています。それは、私も含め、司祭職に召されていることをもう一度確認し、神様の前に襟を正すと同時に、この尊い務めに召されている同労の司祭たちの存在を喜び合う時だからです。

退職司祭も五名おられ、その方々が誓約を更新されるお姿を見ながら胸に迫るものがありません。私がこの教区に遣わされてからもう一年。また若かった先生方は、若造の私を息子のよう、弟のように支え導いてくださいました。現在のようにいろいろな面で生活が保障された我々の時とは違い、この北海道の地で、生活もままならぬ状況に置かれながらも宣教に励んでこられた時代の聖職たち。その土台あつてのこの北海道教区であると改めて感じさせられます。

そしてまたそれと同時に、現役の聖職たちにとっては、働き人の少ない現状で、ある時には体調を崩しながらも遠方の教会の管理をこなす、様々な責任を負う日々であることを思い巡らします。聖職の働きは、信徒の目には見えない、説明することも許されないことが多くあります。信徒一人ひとりの関わりの中で、決して人には言えないことを自分の胸におさめ続けることは、時には苦しく、ただただ神との交わりの中で折り求めるしかすべのないことも多々あります。

- 私たち聖職は不完全でありながらも、主が召してください、ともにいてくださるといふことを信じ、そのことのみを希望を置く者なのです。この日の聖餐式では一緒に聖別祷を唱え、祝祷をしました。
- 主よ、司祭たちを守り導いてください。
- 主教 ナタナエル 植松 誠

現況について報告を受け、今後について協議した。

十 教区逝去教役者 記念聖餐式

五月九日(水) 午前一〇時三〇分 於 主教座聖堂

- 次の方々を覚えて祈ります。
- 司祭 岩田 慶次郎 一九六〇年五月八日
 - 伝道師 山田 致人 一九〇二年五月九日
 - 伝道師 伊勢田 清美 一九三七年五月九日
 - 伝道師 ペネロピー アン フィッシャー 一九八九年五月一日
 - 司祭 佐藤 信康 二〇〇九年五月一日
 - 伝道師 エデイス ルイーザ ペアトリス ノートン 一九五二年五月八日
 - 司祭 與賀田 千秋 一九九七年五月二八日
 - 司祭 伊東 松太郎 一九三七年五月三一日

二〇一八年教区礼拝 (宣教一四四年)

時 五月十九日(土) 一〇時三〇分

於 主教座聖堂 札幌キリスト教会

説教 ・ダビデ上原榮正主教 (沖繩教区)

- ◆ 信施は受付で事前にお届けください。(礼拝の中では、献金袋を回しません。)
- ◆ 礼拝の終りに「ハレルヤ」コーラスを歌います。
- ◆ 昼食代三〇〇円(受付でチケットと交換)
- ◆ 昼食後にミニバザーがあります。
- ◆ 駐車場に限りがありますので、なるべく公共交通をご利用ください。よろしくお願いいたします。



公 示

救主降生 2018年3月13日

日本聖公会北海道教区

主教 ナタナエル 植松 誠

以下の人事異動を行います。

司祭 ハンナ 石坂みゆ子 2018年3月31日付で、道北分区協働司祭の任を解き、定年退職とする。

主教 ナタナエル 植松 誠 2018年3月31日付で、小樽聖公会管理牧師の任を解く。

司祭 ペテロ 大町 信也 2018年3月31日付で、室蘭聖マタイ教会管理牧師の任を解く。

司祭 ヘレン 木村 夕子 2018年4月1日付で、留萌キリスト教会及び深川聖三一教会協働司祭に任ずる。(任期1年)

司祭 クリストファー 永谷 亮 2018年3月31日付で、小樽聖公会副牧師の任を解き、同年4月1日付で、小樽聖公会牧師及び帯広聖公会協働司祭に任ずる。

司祭 サムエル 吉野 暁生 2018年3月31日付で、室蘭聖マタイ教会協働司祭の任を解き、同年4月1日付で、同教会管理牧師に任ずる。

司祭 パウロ 内海 信武 2018年4月1日付で、平取聖公会及び新冠聖フランシス教会での囑託司祭、またバチラー保育園チャプレンを委嘱する。(委嘱期間1年)

司祭 アンデレ 甲斐 博邦 2018年4月1日付で、道北分区における協働囑託司祭及び深川あけほの保育園チャプレンを委嘱する。(委嘱期間1年)

司祭 ダビデ 藤井 一郎 2018年4月1日付で、函館聖ヨハネ教会及び今金インマヌエル教会での囑託司祭を委嘱する。(委嘱期間1年)

聖職候補生志願者

エリサベト 三浦 千晴 2018年4月より、聖公会神学院にて、向こう3年間の勉学を命ずる。

二〇一八年
北海道教区の聖歌

礼拝委員会より

今年の教区のみ言葉(宣教標語)が一月号の「北海の光」に掲載され、このみ言葉が歌詞となっている聖歌二八二番について、植松主教様が書いておられたことは、皆様の記憶に残っておられることと思います。

今年の教区の聖歌は、「罪に苦しみ 叫びをきいた」二八二番をご提案したいと思えます。日々の生活の中で、神様からの呼びかけの声に耳をすまし、「わたしはここにおります。私を遣わしてください。」と言ってみる勇気が与えられるかもしれません。各教会の礼拝で、集会で、キャンプ等の集まりで、また、それぞれのご家庭で折に触れてこの聖歌を口ずさみ、今年のみ言葉を味わいましょう。

(丸山悦子記)

すべてのことを主に感謝!



聖職候補生志願者

エリサベト 三浦 千晴

この度、四月三日より東京の聖公会神学院にて、学びの時を与えていただけることとなりました。これもすべて皆様のお交わり、尊きお支え、そしてお祈りの賜物と深く感謝いたしております。

二〇〇二年のクリスマスに、私は四二歳で洗礼・堅信を授けていただきました。その時の証は、二〇〇七年二月二〇日発行の『北海の光』の「福音と私」に書かせていただいた通りです。その結びの部分に「私は主を知る者となりたい。どんな時も主に信頼し、主を称え、主の示される道を迷わず歩きたい。心も体も供え物として献げ、み旨を行う者になりたい。そんなふう生きていけたら、何と幸せなことかと思っております。」とありました。それから一年。今、聖職を志願した私が、ここに在ります。洗礼・堅信を受けて以来、札幌キリスト教会にて、オル

ターや聖歌隊、信徒奉事やサーバー、教会委員などのご奉仕を担わせていただき、これらのご奉仕を通して、神様の恵み深さに気づき、キリスト者として生まれ、日々み言葉によって養い育てていただきました。そんな中、二〇〇七年から教区事務所職員として働く機会も与えられ、そこでは、教会といえどもそれは、ひとつの組織体である事を学ばせていただきました。また、主様のお姿をお側近くで拝見することで、聖職として主のみ前にあることの豊かさ、そして厳しさを垣間みることができたように思います。一昨年、聖職候補生に志願し、昨年四月二一日付けで、聖職候補生志願者に認可していただくこととなりました。

現在、人と人との間、また教会と社会の間、そして神様と人との間には、破れ・ほつれが大きく口を開けているよ

うに見受けられます。その破れ・ほつれをみ言葉によって補い、人々の必要に応じていきたいと願います。それを実現するため、しばしの間、これまでの生活から退き、神様のみ前で自己を見つめ、空しくされ、人を愛するための訓練と学びに、真剣にまた緊張感を持って取組んでまいります。そして神様の出来事を祈り待ちながら、時を慈しんで過ごしていきたいと思います。

皆様は、私にとって、とても大切なお一人お一人です。ここに、これまで出会ったたくさんの方の「小さな有難う」を神様にお献げしたいと思えます。主様、並びに天上にいるまた地上にいるすべての教役者の皆様、これまで祈り、導いてくださり、有難うございます。札幌キリスト教会の皆様、これまでキリスト者として育ててくださり、有難うございます。転籍される折、祈書の一節をプレゼントしてくださった教友、有難うございます。聖職を志願した臚はなむけにと、療養所訪問をお世話くださった教友、有難うござい

ます。様々な会議・行事で顔を合わす度に、声を掛けてくださる皆様、有難うございます。召命夢想会で、美味しい食事を用意してくださった留萌の教会の皆様、有難うございます。稚内の教会に傘を忘れ、教会に戻った私に「教会に戻れてよかったね。」と声を掛けてくださった教友、有難うございます。網走の地に自ら育て、また採取した山の幸、海の幸を贈ってくださいました教友、有難うございます。長年一緒に教区のご奉仕を続けてきた歴史文書保管委員会、また北海の光編集委員会の皆様、有難うございます。「小さな有難う」は、ここに書ききれないほど他にもたくさんあります。

喜びの時、怒りの時、哀しみの時、楽しい時がありました。そのすべての時に、神様は常にとともにいて導き、行く道に灯を点してくださいました。「すべてのものは、主の賜物。わたしたちは主から受けて主に献げたのです。」すべてのことを主に感謝します。

神学生養成委員会から

毎主日、北海道教区に聖職に召される人が与えられるためにお祈りくださり、また神学生養成献金をお捧げくださり、心から御礼申し上げます。

さて、今春は札幌キリスト教会の三浦千晴姉が聖職候補生志願者として東京の聖公会神学院に入学されました。姉はこれまで札幌キリスト教会の信徒奉事者や教区の歴史文書保管委員長をはじめ、数多くの神様の御用を通して信仰を深めて来られましたが、さらに「召命」という大きな恵みが与えられ、聖職を志す気持ちにさらに固められ、それが今回の入試合格と入学に至りました。姉にはこれからご家族と離れて東京での三年間にわたる厳しい学習と研修の生活が待ち構えています。皆様には改めてお祈りと物心両面における暖かいご支援・ご協力をお願いいたします。

神学生養成委員長 荒木 道郎



▽旭川聖マルコ教会

七・二四日と二回「レントの集い」開催、ビデオで使徒言行録の舞台を巡りました。今行く事の出来ないシリア等についての報道を考えると心が痛みます。

札幌キリスト教会信徒(旭川在住)パウロ有木照祥さんの葬儀が八・九日行われました。魂の平安とご家族に主のお慰めをお祈りします。

三・二一の集いが開催されました。東川へ自主避難されている方の話を伺い何も解決されていないと感じました。

三二日聖土曜日の礼拝の前に「こどもイースターの集い」が有りました。礼拝後イースターエッグ作り、手品を見て

楽しみました。

保育園は一〇日第六九回卒園式、一四名の卒園児が巣立ちました。

▽岩見沢聖十字教会

三月は別れの季節。二日、石坂みゑ子司祭司式による最後の聖餐式。二年間、ありがとうございました。愛餐会の後、正岡辰郎兄のハーモニカ演奏で、『神ともにいまして』を皆で賛美しながら送り出す。いつまでもお元気で。

一五日、幼稚園卒園式。三八名の園児が巣立つて行く。退場時、卒園児と担任四名に教会から花一輪が手渡される。

翌日、終業式。この一年で大きく成長した園児達。諸事情で園児二名が転園。教員三名が退職。慣れ親しんだ方達が去るのは寂しさを覚える。

▽有珠聖公会

三月二八日、四月一日と、二週続けて聖餐の恵みにあずかりました。棕櫚の枝を掲げて主のご受難の歩みを記念する復活前主日の礼拝、翌週は、主のご復活を喜び祝いまし

た。礼拝後、向井昌子さん手製のゆで卵と茶菓を楽しみながら四月三日、開催の「三浦綾子読書会」の準備の打ち合わせ。三浦綾子文学記念館の森下辰衛先生を迎えて三浦綾子さんの自伝「道ありき」について講演いただきました。当日は、午後二時からのプログラムです。有珠まで足をお運び下さる事、歓迎。

▽小樽聖公会

三月一日の聖餐式は大斎節中のプログラムのひとつとして、永谷司祭による「解説付き聖餐式」でした。聖餐式の随所でコメントがなされ、礼拝上の意味や所作について学びました。同日の婦人会では学びを続けてきたH・ナウエンの『燃える心で』の最終回。「聖餐を生きる」について思いを深めました。婦人会に続き「東日本大震災を覚えての祈り」を一同で行い、犠牲者と被災者、被災地のために共に祈りを捧げました。

大斎節、聖週の礼拝、行事も例年通り行われ、復活節・顕現節中の聖餐式で用いる

チャントの練習も順調に進んでいます。

▽新冠聖フランシス教会

みなさま、イースターおめでとうございます。あれほどたくさんあった雪がアツと言う間に融けて、光あふれる季節となつてまいりましたネ。

三月二五日・復活前主日は「棕櫚の日曜日」―礼拝の中で祝別されたシユロの十字架をいただきました。と同時に、この日はあの「灰の十字」のしるしを胸に刻む時ともなりました。

四月一日・復活日、声高らかに主を賛美いたしました。奥田光希さんと光也くん、田上ことねさん、こはるさんを含め一八名の出席者でした。

▽帯広聖公会

当教会が当番の世界祈祷日礼拝は、悪天候のため、当日朝に中止となりました。婦人会を中心として何か月も前から、準備を重ねていただけに中止は残念な事でした。

イースターに備えて、教会宣教パートナーが協力し礼拝案内チラシを作製し、幼

稚園保護者、近隣に配布致しました。昨年同様チラシを見て新しい方が来会される事を祈つて。

一三日付けの公示により、四月以降も当教会の無牧状態の継続が確定しました。今迄がとても恵まれた状態であった訳であり、現状を容認せねばならないと思っております。

▽稚内聖公会

三月一八日、待望の聖餐式！教会のまわりの雪もようやく解け始める。が、今年の降雪量は半端ではなく、かかった除雪費はなんと六万円！ストローブをつけ、水道を点検。礼拝堂、牧師館に大きな異常はみられず、一安心。それにしても、この建物を維持していくのは大変だなあ。

道路はまだぐちゃぐちゃで本原さんが教会まで来るのは難しく、本原宅にて聖餐式。テーブルを挟んで向き合って説教。本原さんが相槌を打ってくれる。これもなかなか素敵なお聖餐式でした。

▽札幌キリスト教会

雪がとけ、やっと札幌にも



司祭按手の誓約更新聖餐式 2018.3.29

春の兆しが。今年の大斎節行事として二つの映画鑑賞会が三月一七日「塩狩峠」二四日「三浦綾子の足跡」一八日「子ども食堂の働きを通して」お話を聞きしました。信仰とは、三食当たり前のように食べている幸福。改めて基本に立ち戻る良い機会を与えられました。二九日、過越しの食事と同じメニューでの夕食会。楽しいご報告として、当教会玄関ロビー・アトリウムにて「木曜カフェ」が試験的にスタートいたしました。北大のさくらを見に、お散歩がてらぜひ一度お立ち寄りください！若いスタッフがお待ち

ちしております。

▽新札幌聖ニコラス教会

二日、教会ホールの床を濡らしたスガモリは翌日止まる。四日、み言葉の礼拝は一四の留(りゅう)と詩編、福音書を記した小冊子で主の十字架の道行きを共にする。一日、下澤司祭の大斎講話では人生の終わりの時と司祭や教会との関係の解説あり。同日午後二時三〇分、七年目の東日本大震災を覚えて一二名が黙想と祈りを共有。

▽聖マーガレット教会

一八日、雨宮寿子姉より一七年前は司祭と、今回は令嬢と参加されたアッシジ巡礼の旅で、黙想時に感じた「悲しみ」と、参加者との会話で受けた「恵み」についての証を拝聴。二五日、一斉清掃、汗を流す。

▽札幌聖ミカエル教会

三月一日、東日本大震災七周年に際して「二時四六分の黙想」を行い、全国の教会とともに復興を祈る。一六日、幼稚園卒園式、子どもたちは祈りの心をもって巣立ちました。インフルエンザ等で欠席

した七名は、後日改めて卒園式を行う。一八日、大斎講話としてJOCIS(日本キリスト教海外医療協力会)理事で、当教会信徒の大友宣さんから活動のお話を聞く。二三日、ロザリオの祈り、「赦し」について黙想する。二九日聖木曜日、洗足の礼拝、仕えるために来られたイエス様のみ跡を思い巡らしました。

▽函館聖ヨハネ教会

三月四日、一八日バツハが

▽苦小牧聖ルカ教会

三月三日、主教様による聖ルカ幼稚園新園舎落成式が執り行われました。雪解けの進む中、遠方からも多数のご出席を賜り感謝いたします。一七日には現園舎最後の卒園式が行われ二人の園児が元気に巣立って行きました。主のご加護がありますように。

▽平取聖公会

町の記録に無いような春先の大雨が三月上旬に降り、園

この時節のために作曲したカーンタータに耳を傾けながら静かな時間を過ごす「大斎メデーテーション」を企画、歌詞の基となった聖書の箇所を学ぶ。一日、東日本大震災七周年記念日、礼拝の中で想いを一つにすべての逝去者、困難のうちにある方々を覚えて祈りを捧げる。礼拝後、アソレ濱島國四郎兄逝去二周年記念式。昼食後宣教部会。三一日午前、日曜学校クッキー作り、午後大掃除とイースター準備。夕刻、復活のろうそくと十字架の祝福式。静かに復活日を迎える。

▽紋別聖マリヤ教会

長かった冬もようやく終わり、心配されていた雪解けが進み、各農家さんの畑も顔を出し始め、ひと安心。三月四日、礼拝終了後に定例教会委員会が開催され復活日に向けての最終調整などが話し合われました。三月一日、聖餐式の中で東日本大震災七周年記念祈禱が行われ、それぞれの歩みを振り返る時が持たれました。

▽幼稚園

幼稚園においては、三月一九日、第六二回卒園式が行われ、園児一人一人に卒園証書が渡されました。

庭の雪は消えましたが、町内ではトマトハウス内に浸水し、せつかく育てた苗がダメになり棄てているのが報道されました。

大斎節の花の無い祭壇ですが復活前主日、棕櫚の主日の祭色の赤が眼に沁みます。復活のみ足の音が間近に迫っているのを感じます。

保育園は九人が卒園し、一人が入園予定です。信徒の山崎喜一郎さんのひ孫さんが入園され喜びも一入です。みんなの元気な一年を祈る。

▽網走聖ヘテロ教会

例年よりも雪が少ない昨今五日早朝に、クララ和田昭子姉が天に召され、六日、七日ご自宅で近親者のみで葬儀が行われた。常に他の人々を、心にかけていた。故人の魂の平安とご遺族に主の慰めが与えられるように祈る。

一九日佐藤一弘さん宅にて、大斎中の家庭集會が開催された。二九日の受苦日は十字架の道ゆきを唱え、主の受難を偲んだ。時々降る季節外れの雨に春が近いのではと思

われる。

▽留萌キリスト教会

記録的大雪と暴風雪が多発する冬でした。世界祈禱日礼拝は、警報発令のため中止。市内のすべての学校も休校の措置が取られていました。

「信頼のしるし」の読書会は体力に合わせてゆっくりと進み、信仰理解の新たな視点を与えられています。

受苦日の黙想を三名で行い、十字架で贖われた罪について思いめぐらし、ザワザワと身震いを感じました。

▽深川聖三一教会

三月一日保育園児の卒園感謝礼拝が教会で行われる。三井土井さよさんの逝去一年の記念式、一四名、無教会派のご家族とのお交わりに感謝。四日石坂みえ子司祭の送別会。一日全員で教会報発送作業。一五日保育園職員会議、四月予定を確認す。一七日深川あけぼの保育園第四回卒園式挙行され、教会代表高木和枝さんより祝辞、優しくてあたたかな励ましの言葉でした。二五日管理司祭広谷

和文牧師ご来教。石坂司祭最後の礼拝奉仕。二八日石坂みえ子司祭当教区任務終了離道。

▽北見聖ヤコブ教会

屋根の下の雪山は高々としています。それ以外はほほ融けた北見です。

三月二日(金)世界祈禱日がカトリック教会であり、椿田和子姉、高橋玲子姉、司祭の三名が出席、豊かな時を過ごしました。聖金曜日(受苦日)礼拝は「十字架の道行」を三名で守りました。

▽今金インマヌエル教会

今年の今金の冬は大雪で連日の除雪作業に体も悲鳴をあげていましたが、三月一日、二五日と二回礼拝を守ることができました。七月七・八日に道南分区分婦人集會及び道南分区分区集會が確定。地

域に教会の存在を知って頂く為の今金ジャズコンサートを境内地で開催することなど話し合いました。

▽室蘭聖マタイ教会

環境省より古い建物に使われている照明器具(蛍光灯に有害物質が含まれている)問い合わせあり、藤井兄ラベルを調べメーカーに伝え大丈夫との事一安心。一日吉野司祭来会。聖餐式後来月からの予定が決まる。二五日大町司祭御夫妻来会、復活前主日棕櫚の枝を持ち礼拝が始まる。福音書は司祭のお話と黙想を混ぜ十字架の死に至るまでを解りやすく説教される。聖餐式後、一階にてささやかなお別れ会を行う。六年間信徒一人一人の心に寄り添って下さり心より感謝。淋しくなりましたが合同礼拝にお目にかかれるので楽しみにしております。

函館聖ヨハネ教会で行われた大斎の夕べには天沼久美子姉と山崎二三子姉が参加。イースター、種の祝福の準備教会境内地整備と忙しくなります。主の平安を祈ります。

▽釧路聖パウロ教会

二日の世界祈禱日は、カトリック教会当番で六〇余名が出席、聖公会から九名参加し教派を越えて祈り合いました。四日は「み言葉の礼拝」津田信徒奉事者による司式歓迎。可愛らしい着物姿で城石梨奈さん奏楽奉仕に一足早い春到来。一日の大震災記念日、鐘の音に合わせて祈り教会初の避難訓練を実施する。

一六日は、頌栄保育園の卒園式、一二名の卒園児に前田博美園長の力強い饒の言葉、二〇五八号の卒園証書に長い間の関係者のお働きを偲びました。一八日はオリブ会、学びの後話し合いで復活日愛餐会のお昼は「ちらし寿司」と決め、棕櫚の葉で十字架作りのお仕事を行う。二五日の礼拝は、イエスの受難劇で守りました。

▽厚岸聖オーガスチン教会

厚岸教会の新しい宣教活動を願い、春の清掃活動を兼ねて現地訪問をしようとの声が聞こえます。主の導きを!!

二日の世界祈禱日は、カトリック教会当番で六〇余名が出席、聖公会から九名参加し教派を越えて祈り合いました。四日は「み言葉の礼拝」津田信徒奉事者による司式歓迎。可愛らしい着物姿で城石梨奈さん奏楽奉仕に一足早い春到来。一日の大震災記念日、鐘の音に合わせて祈り教会初の避難訓練を実施する。

一六日は、頌栄保育園の卒園式、一二名の卒園児に前田博美園長の力強い饒の言葉、二〇五八号の卒園証書に長い間の関係者のお働きを偲びました。一八日はオリブ会、学びの後話し合いで復活日愛餐会のお昼は「ちらし寿司」と決め、棕櫚の葉で十字架作りのお仕事を行う。二五日の礼拝は、イエスの受難劇で守りました。